

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎 9 0 5 番地 3 2		
自己評価作成日	平成30年10月 8日	評価結果市町村受理日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様の体調を把握し、体調不良時には食事・栄養面を考え、病院受診を早く行い、早期回復に努めている ・入居者様のお一人お一人の状態に合わせて作業を手伝って頂き、能力をいかに発揮して頂けるかを考えながら、充実した生活を送って頂ける様に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは温泉や足湯で知られる観光地にある。入居者は、職員の支援のもと、風船バレー大会等様々なイベントに積極的に参加している。代表者は、グループホーム協議会事務局の役目を担い、他職種との情報共有や連携に積極的に取り組んでいる。運営推進会議参加者の助言を真摯に受け止め、改善に繋げる様子が詳細な議事録より窺える。また看取りにも積極的に取り組んでおり、保健所主催の検討会へ参加し、知識を深めている。今回「人生年表」を作成し、入居者と家族・職員のコミュニケーションに役立てている。元入居者の初盆には、手先の器用な入居者を中心に、精霊船を完成させ亡き仲間を弔っている。入居時には、環境の変化で不穏であった入居者に、寄り添い、見守ることで落ち着きを取り戻した事例があり、「能力を最大限に発揮し、健康で安全な生活の継続」という理念を具現化しているホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は入口にあるので誰もが見ることが出来る様になっている 新人スタッフにも説明はされている 入口に貼ってあっても気がけて見ていないので理念の周知までには至っていない ミーティング等で機会を作るといいのではないかな	理念と支援のための基本方針4項目は、玄関に掲示している。今年度、入居者の「人生年表」を新たに作成している。一人ひとりのバックグラウンドに光を当て、入居者が好きなことを家族と協力して継続し、楽しく過ごしていけるよう支援するなど、全職員で理念の具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの餅つきなどの行事に加え、地域の祭りや文化祭など出向いている 町内の方が殆どなので毎年楽しんで頂いている 今年より他市の方が入居された為、全職員で話し合い、繋がりが保てる様にしていきたい	日頃から地域の人々とは挨拶を交わす間柄である。多彩な地域祭りがあり、職員、入居者共に野菜の下拵えなどで協力している。RUN伴に車椅子の入居者も参加している。中学生職場体験、ボランティア、また、ホームの餅つきには、近隣からの参加で賑わうなど双方向での繋がりは深い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や障がい者の方の職場体験を受け入れ、認知症の方の事や、グループホームの事等説明行っている 運営推進会議の際事例を通し、意見を頂いたり理解を求めたりしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われている運営推進会議にて、入居者様の現状を報告し、アドバイスや意見を頂いている 会議で話し合われた内容は、ミーティング等で報告され、サービスの向上に活かしている	規定のメンバーで開催し、近況・行事・事故報告、質問など、改善に繋がる会議であることが、詳細な議事録から窺える。家族にはプライバシーに配慮した議事録を送付している。メンバーから、見守りシステム「見守りステッカー」に関する助言を取り入れ、サービスに活かした事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護に関しては、市の担当者に相談や必要書類の対応等協力頂いている 又職員の見守りが足りず、一人歩きに出られた事のある入居者様について報告した際、地域包括支援センターの方より雲仙市の見守りシステム存在をご紹介頂き、実際に利用している	包括支援センター職員とは親交があり、助言をサービス向上に活かしている。管理者職員は、包括ケア会議で多職種との事例検討で情報を共有している。行政とは、介護認定や事故報告などホームの実情を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会に参加した職員が内容を報告し、全員が理解出来る様にしている 入居者様の状況により離床センサーは使用しているが、できる限り制限しない様努めている 玄関の施錠は安全面を考え夜間のみ行い、身体拘束しない様話し合いながらケアを行っている	毎年、職員は身体拘束に関する外部研修に参加し、所内で報告して共有を図っている。管理者は、身体拘束ゼロの手引書より抜粋した新マニュアルをもとに、会議毎に言葉遣いに関して職員に注意喚起している。玄関施錠はなく、寄り添って散歩するなど拘束のない支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に虐待防止の研修に参加し、学ぶ機会を作っている 虐待は身体的なものだけでなく、言葉による心理的な虐待もあるので、言葉遣い等気をつけなければならない事も理解している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在雲仙市社会福祉協議会の福祉サービス利用援助事業契約を結んでいる入居者様がおり、職員に契約までの流れを説明している。しかしながら、きちんと把握している職員は少ないと思われる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはご本人様とご家族様に十分説明を行い、納得して頂いている。入居後の不安などはご家族様の来設時やご本人様に尋ね、都度説明を行っている。常にご家族様から質問等対応できる心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でも意見交換の場となっているが、運営推進会議報告書をご家族様に送り、その内容についてのご意見やご感想を頂く事も時々あり、参考にさせて頂いている	職員は、利用者や家族との会話を大切にしている。毎月、それぞれの担当者が入居者の近況をお便りにして送付する他、遠方の家族へは、電話で連絡を取っている。敬老会、誕生日会、花火大会等家族が集う機会を多く設けている。昨年度、入浴回数についての要望が上がり、職員間で共有し検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングや毎日の申し送りにて意見を出しているが、全職員が意見を出すわけではないので、時間ある時、個人個人へ意見を聞く様に心がけている	月1回の会議では、入居者の状況、業務内容や行事について全員で話し合いを行っている。毎日の業務での不明点は、それぞれのホーム長に伝えている。職員と代表とは、直接話ができる関係であり、新人職員からも提案があがっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日数減少により職員の疲労が見られ、業務だけで精一杯に思われる。給与面では夜勤手当等上がったが、残業が無くなると厳しくなるので、手当等も考えてほしい。職員一人一人何を目標にしているか理解していない為、話し合い、向上心を持って働ける様環境作りをしていきたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は参加しているが、全職員が納得して研修に臨んでいるとは思えない。職員一人一人苦しい事、得意な事があるので、それを活かせる様努力している。ホーム内でも勉強会を行い、知識の向上にも努めたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市、島原半島の各グループホーム連絡協議会の研修に参加し、同業者と話し合う機会は持っている。今年は市内同業者との交流会に参加し、たくさんの意見を聞く事ができた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を得た上で、入居者様へ新たな質問をしたり、好きな事、好きな食べ物等を聞き出している 不安がある様であれば傾聴し、笑顔の出る話を見つける		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に入眠時間や食事量、食事の時間等、自宅での生活リズムを尋ね、合わせている 特にホームへ慣れるまでは、入居者様の生活に合わせる事ができる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まると、必要となりそうなもの、予想できる範囲の準備をした上で、入居して頂ける様にしている 権利擁護事業や居宅療養管理指導など、必要性の高いものは入居まで関わりのある方々との連携を密にして、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームへ入居後も、家庭でもされていた家事やできる事を探りながら、手伝いへ参加して頂きたいと思って接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際には、ご家族様が知らない入居者様の日々の様子や発言について、お報せする事がある 又月に一度の近況報告を送り、イベント等への参加を呼びかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅におられた頃の馴染みの方が、入居後に面会に来て下さる事がある その際は、居室でゆっくり話ができる様に対応している 新しい入居者様は、今後ご自宅近くへお連れする等、対応していきたい	入居者一人ひとりの生活歴から「人生年表」を作成し、職員と入居者との会話の糸口としている。家族の結婚式や法事で外泊したり、家族の協力を得て、毎年墓参りに行く入居者や自宅の畑の様子を見に出掛けた事例がある。教え子が訪ねてくることもあり、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットが二つあり、定期的に合同イベントで顔を合わせる事があり、話が盛り上がっている方々の時間を、止めない様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様へ年賀状のやりとりを行ったり、ホームの通信を送ったりしている 近所におられるご家族様には餅つき大会の餅をおすそ分けしたり、外出先でお会いした際など、その後の事等尋ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から入居者様の思いや訴えを聞き出し、できる限り思いに副える様支援している 意思疎通が困難な方にも、表情や目配せで思いを伺う様にしている 入居者様の心の中の思いに副えているかについては、まだ努力する必要がある	職員は、入居者との日常の会話から思いを把握している。また今年度、生活歴を基に「人生年表」を作成して、思いや意向を把握する際の参考にしている。入居時に不穏だった入居者に、優しく寄り添い、じっくりと話を聞いていくことで、穏やかな生活を取り戻した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご本人様やご家族様に入居前の生活状況を聞き、入居後はご友人等来設された際も何う様にしている 又ご本人様へも普段の会話の中で、過去の話や聞く様にし情報収集に努めている 今年はお一人お一人の人生年表を作成した		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方（食事量・作業内容・体調等）、又心身の状況に合わせ対応した事も、個人日誌へ記載している 有する力については、その日により異なる事があるので、その都度記載し、職員間で共有する様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はミーティングで話し合い見直し行っている 対応等については、申し送り等で話し合っている 介護計画は変更ある毎にご家族様へ報告している ミーティングに出席していない職員へは、後日申し送りをを行い、統一した介助が出来る様にしている	利用開始時、医療施設や家族からの情報をもとに、計画作成者が暫定プランを作成し、1ヶ月を目途に見直し介護計画を作成している。目標期間は設定せず、月毎のユニット会議にて、担当職員を中心に全職員で検討し見直しを行っている。退院後や変化時はその都度見直ししている。本人、家族に同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌へその日の様子を記入し、朝夕の申し送り等にて職員間で共有できる様にしているが、時に特変時の記入漏れ等あり、完璧とは至っていない為、今後丁寧に指導や助言の必要あると思われる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望あった場合、なぜ出現したかを考え、対応している 飲酒希望の方に対しては、主治医やご家族様に相談し、了承を得た上で対応できている 又、外出希望等ある場合もできる限り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の体調と要望により、リハビリ通院や食材の買出し同行。必要物品の購入等一緒に外出して頂いている 又地域の祭りやイベント等可能な限り参加して頂いている 訪問して頂くという面では、歯科診療や理美容師の方が、ホームにて対応して下さっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	先ずはご家族様へ意見を伺っている 緊急時の対応に関しては、ご家族様の意見に副しているといえる かかりつけ医に関しては、全てのご家族様が満足されているか不明であるが、何かあればすぐに連絡し、適切な医療が受けられる様にしている	ほとんどの入居者は月2回の往診がある協力医がかかりつけ医であり、歯科往診もある。他科受診は職員が同行し、家族に結果を伝えている。また、必要時は家族の同行もある。月4回、看護師が訪問し体調を観察している。緊急時は、協力医の往診や主治医との24時間連携にて適切な医療を受けられるよう体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来設の際、全入居者様の事を伝えている 特変あった方の場合、意見を頂き現在適切な受診を受けられる様、支援はできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻回に面会に行き、病院関係者と話を重ね、早期退院に向け努力している 町外の病院の場合は、頻回に行く事は難しいが、休日等利用して通い、食事介助支援等行った		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや急変時の対応については、ご家族様へアンケート様式で意見を頂いている ご家族様ご来設の際、今後の件等意見を聞く様にしている ご本人様の意向確認は難しいが、アンケートをきっかけにご家族様から確認して下さった方もあった	利用開始時、家族に看取り指針をもとに説明し同意書を得ている。今年度、数名の看取り経験後、改めて家族に「意向確認書」を送付し、終末期の在り方を家族で考えるきっかけとなるよう取り組んでいる。職員は、ターミナルケアの外部研修に参加するとともに、新人職員には、事例を挙げながら、看取り支援への意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度対応の仕方は違う為、急変と一括りにはできないが、ある程度の対応は出来ている 又その後も、あの時はこの方法でよかったのか等、省みて話し合う時間も持っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的に行っているが、自然災害に対しては、市の防災マップを全員で読み込んだのみであるので、今後は一つ一つ災害に対し、話し合い準備を検討していく必要がある	消防署立会いや自主火災訓練を其々1回、昼間想定で初期消火、通報、避難と一連の流れで訓練している。消防署の指導により、非防火カーテンの撤去を行っているが、総評を訓練に活かす自主訓練が少ない。また近隣の参加がない。自然災害については、事業所独自のマニュアル整備と訓練はこれからである。尚、備蓄は整備している。	職員が落ち着いて行動できるよう、消防署の総評をもとに訓練を積み重ねること、夜間想定訓練に期待する。また、見守りのための近隣の訓練参加が望まれる。あらゆる自然災害に備えるためのマニュアル整備と対策に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『物が無くなった』と不安な気持ちにならない様に、入居者様の居室にはご本人様と一緒に入室する様にし、入居者様の話は居室内で傾聴している	入居者の記録簿の背表紙は、イニシャルで記載し、写真やTV出演について承諾を得ている。パッド類は、トイレの箱に目につかないよう保管し、プライバシーに配慮した支援を行っている。呼び方は、苗字や名前であり、本人の希望に沿っている。ただし、職員の声のトーンが強かったり、友人との会話に近い言葉遣いになる場合がある。	入居者一人ひとりを年長者として敬意を払う支援が重要となるため、声のトーンや言葉遣いについて、再度検討することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望にはなるべくすぐに対応できる様に努めているが、できない場合はきちんと説明行い、後日対応できる様にしている 又自身で言えない方には、質問等で確認している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『その人らしい事』を職員一人一人が考え、どうしたら喜ばれるかを常に考え対応している 食事やおやつ以外の時間にご自身で入室される方は特に止めないが、興味を持たれる事はないか模索し、提案受け入れられれば一緒に過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者様には、日頃からマニキュアを塗ったり、化粧水をつけたり、誕生日には化粧をしたりしておしゃれを支援している 男性入居者様は、季節に合った衣類の選択や、身嗜みを整えるなど、日々お手伝いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食後の片付け等を職員と一緒に、して頂いている 又月に数回は入居者様の好物を提供したり、食べ易い形状で提供したりしている	メニューはユニット毎に、職員が交互に作成しており、日によって配食サービスを利用している。アレルギーやきざみ食にも対応している。敬老会や父母の日等には、家族を交えて食事会を開催している。季節毎にスイカ割、餅つき、豚汁作りと入居者が参加できるイベントを企画し、食事が楽しいものとなるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人のその日の健康状態を見ながら、食事量や水分補給量を把握している 残食が多い場合は声かけ行い、声かけしても無理な場合は高カロリー栄養剤等で、むくみや口腔内の状態を見ながら水分量は多めに、など支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員のフォローを交え、口腔ケアをして頂き、夕食後は義歯を外し消毒する様にしている ご家族様の同意が得られた入居者様に関しては、居宅療養管理指導契約を結んで頂き、歯科医や歯科衛生士等の定期管理をお願いしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎 ユニットえびす

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に合ったパッドやオムツ類を選択し、汚染した時は都度交換して頂く様にしている 入居後間もない方で、居室にポータブルトイレ設置を希望されたが、日中も居室より出られない時間が増えた為、説明して撤去すると、夜間もトイレへ出てこられる様になった	排泄チェック表を作成し、職員は入居者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、誘導している。日中は、トイレの利用を基本として支援を行っており、入居時はポータブルを希望していた入居者が、トイレへ行くようになった事例がある。失敗した際もさりげなく誘導し、自尊心を損なわないよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員による便秘薬調整と、水分補給は充分である様、食事以外でも摂って頂いている 摂取量少ない時は、各人の好きな飲み物を提供し、補給している 排便状況を全職員が把握する為、申し送りにて全入居者様のその日の排便状況と最終排便日等を報告している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調と、希望をお聞きして入浴支援を行っている 自ら望まれる時は、できる限り対応できる様にしているが、職員都合で延期する場合も納得して頂く様に説明行っている 入浴後はいつも喜びの声が聞けている	浴室のお湯は温泉であり、岩風呂風の大きな浴槽である。同性介助については、それぞれ本人に確認を取っている。近年、職員不足により、入浴の回数が大幅に減っている。また入浴できない日は、清拭を行っているが、記録簿に記載していない。	入浴は、入居者にとって清潔保持とともに、リラックスできる時間でもある。職員不足の現状であるが、入浴回数を増やす取組みに期待したい。また清拭した記録方法についても工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間も起床時間も、お一人お一人の希望に合う様にしている 又トイレに起きて来られた際に水分補給して頂いたり、エアコンの調整を職員にて行い、安眠して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増量や減量は医師に相談行い、その後の状態も報告している 薬は個人別にケースに入れ保管しており、お一人お一人の薬について理解する様に努力しているが、稀に間違いや申し送り漏れ等起こるので、今後も引き続き努力が必要である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ機器を導入し、DVDとの併用でほぼ毎日音楽やレクリエーションを楽しみ笑顔見られている 飲酒やダンス、編み物や体操等、好きな事を楽しんで頂ける様努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の買いたい物を買いに外出したり、それぞれと落ち着かれない(理由が判らない)時等は、ドライブにお連れしたりしている 家族全員でお墓参りに行きたいとの相談があった時は、車の乗降や外食の手配や準備の支援を行い、大変喜ばれた	入居者は、日常的に職員と共に商店街に買い物に出掛けている。正月には、毎年初詣へ行く他、温泉祭の見学や地区の風船バレー大会には、全員が参加している。年末には、町内の福祉施設の駐車場を借りて餅つきを行い、「RAN伴」では、3名の入居者が町内を車椅子で完走する等年間を通じて、外出する機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心材料となる内はご本人様管理として頂いているが、転じて不安材料となった場合は、ご本人様やご家族様と何度も話し合いを行うなどして、ホーム管理へと移行している ご自身で支払い頂いた時も、破棄されたレシートをその後のフォローの為に職員が保管する等している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からハガキやお中元等届いたら、一緒に見て、お礼の手紙や返事を書ける方には書いて頂いたり、電話をかけたりかかって来た時の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの温度調整はその都度行っている 夜間はリビングで起きている方と居室で休まれている方の両方に気を遣い、明るさの調整行っている 今年はずいぶん全員揃っての花見に行けなかった為、室内に桜の飾り物を施した	玄関やリビングには、入居者の思いが籠った作品を展示している。花を飾り、壁の書道作品は家庭的である。ソファやテーブルを配し、入居者同士がお茶を飲み寛ぐ様子が窺える。また、リビングでは、入居者がカラオケを楽しむことがある。職員による明るさ調節や空調管理、専門職員による毎日の清掃で、清潔で落ち着ける空間に整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とおしゃべりをしたり、テレビを楽しむ時により見やすい様に、時にはソファで寛ぎたい時に、などの移動のお手伝い行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉で昼夜の区別をしたり、安心感を得たりしている 季節やご本人様の希望に合わせて寝具を準備している 又TVを居室に置きたい方がおり、ご家族様等と検討している	洋室と和室があり、ベッドや布団、テーブル、椅子など使い慣れた物を配置している。仏壇や位牌、家族写真、趣味の作品があり、テレビは見やすく配置し、自宅の延長に設えている。洋室では訪問時にマットを敷いて寛ぐ家族もいる。日差しはカーテンで調節し、温湿度の管理やこまめな清掃で、居心地よく過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に入居後間もない方は、ホーム内の間取りが理解できず間違われるので、表示を大きく、その場で『お手洗いです』『〇〇さんのお部屋です』と伝え、理解して頂いている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎 9 0 5 番地 3 2		
自己評価作成日	平成30年10月 8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・リハビリの一環として、入居者様の得意な事、調理作業や洗濯作業等を行って頂いている ・レクリエーションを通して、入居者様同士のコミュニケーションをとって頂いている ・スタッフ一人一人が入居者様に寄り添い支援する事で、楽しく会話ができて、一日一日を楽しく過ごして頂いている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に説明があると共に、タイムカード横に理念を設置しているものの、出社・退社のタイミングではきちんと確認する時間はとれていない ミーティング時等、決まった日時を決め、スタッフ全員にて確認する時間を作ってみてはどうか			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや文化祭等地域のイベントには見物などで参加しており、町内の文化祭には入居者様の作品を展示し、ある程度認知はされる様になってきている			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来設されるご家族様へは、ホームとしてある程度アドバイスできている 昨年は認知症の事をもっと知ってもらおうという目的で全国的な活動となりつつあるRUN伴というイベントに積極的に参加し、入居者様のご家族様が中心ではあったが、地域の方々との交流ができた			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議実施し、ご家族様へも毎回報告書にて報告行っている 又今年度からは『身体拘束廃止推進委員会』を兼ねて会議を行い、制度について、又内容について一緒に協議して頂いている			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や半島のグループホーム連絡協議会の事務局という立場もあり、以前に比べ、担当者の方々とは顔の見える関係性が築けていると言える			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修にはホームとして積極的に参加行い、研修報告書の回覧や、ミーティング時に発表する事で、参加していない職員への周知徹底に努めている			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、ホームとして研修に参加し、周知徹底に努めている			

おばま温泉グループホーム湯之崎 ユニットほてい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修があれば参加行うものの、入居者様の権利擁護についてはこれまで、施設長に一任してきた為、他の職員で理解・活用できているとは言い難い。しかしながら現在、社会福祉協議会の権利擁護事業や成年後見制度を利用中の入居者様方がおられ、実践を通して学ぶ良い機会となっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は基本全て施設長にて行っているが、制度改正の度ご家族様への説明と同じ内容を、職員へも説明行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見ボックスの設置等でご家族様からの意見を取り入れ様とはしているが、職員の方より積極的にご家族様の意見を聞くには至っていない		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に意見を提案する機会が設けられておらず、基本は個人にて施設長へ意見を述べなければいけない現状の為、気軽には言えない事が多い。ミーティング時に意見の提案を出す機会を設けてはどうか		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在職員の人員不足から、休みの減少、夜勤回数の増加があり、体力的・精神的に職員に余裕が無くなっており、改善を求めるが、人員の問題である為改善の見通しは立っていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設以来取り組んできたつもりであるが、職員を育てる事に関しては、全くできていなかった。一人一人のやる気を興す事から、できていない事を思い知らされている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島グループホーム対抗風船バレー大会にて、半島のグループホーム同士での交流を持つ機会があり、又餅つき大会等ホームイベントへの参加呼びかけ、他ホームのイベントへの参加を行っている。ここ数年は町内グループホームの職員の忘年会にも参加している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後等に、ご本人様又はご家族様に不安や要望等をお聞きし、サービスに反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に一番困られていた事等を伺い、入居された事で少しでも安心して頂ける様に努めている 入居後の面会時に『顔色がよくなった』等の言葉が聞かれる事もある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まってから、ご本人様に対する情報を元に、どの様な支援・サービスができるか等対応を検討し合い、又更なる情報収集に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下拵え、洗濯物たたみや買物の外出・同行等、ご本人様に合った日常の作業を、職員と一緒にして頂く事により、『暮らしを共にしている』という関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かにつけイベント等への参加声かけをご家族様に行っている 商売されているご家族様の参加は難しいが、近況報告でも日々の様子は報せており、更に面会に来られないご家族様はいないので、来設時はホームでの生活を報告し、ご家族様ともコミュニケーションを図っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、人の名前が出てきた時は、ご本人様やご家族様にお聞きし、お連れ出来る場所であればお連れし、会って頂ける人であれば会って頂ける様な支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳や目が不自由な方もいる為、勘違いが起きない様職員が間に入り、入居者様同士の良好な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先へのお見舞いや、退去後ご家族様へ年賀状を送らせて頂き、関係性を大切にしている 又退去後に、ご家族様よりお礼のお言葉やお手紙を頂き、仕事の励みとなった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	『家に帰りたい』といった要望あれば、ご家族様と相談行い一時帰宅を考えるが、現在の入居者様の場合、ご家族様に相談する前に職員にて要望の傾聴行う中で、受け入れておられる事が多い		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご家族様等にできる限り生活歴をお聞きし、バックグラウンドの把握に努めている 又、入居後ご本人様との会話の中、聞き取る努力も行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌により、一日の流れを把握し、それに基づき、お一人お一人一日の流れや生活習慣にできる限り合わせた対応を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ミーティングを行い、意見やアイデアを出し合い、より良い介護計画作りに努めている 状態に変化あった場合は見直しを行い、現状に即した介護計画作りに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人日誌・ホーム日誌へ記録行っており、申し送りにて職員間で情報の共有行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の高齢化や、生活保護・権利擁護・成年後見等の経済的な事情等、お一人お一人の状況に合わせて、必要な支援を考えている ご本人様の収入をいかに有効に使うか、等の相談にも全職員で考える様にしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎 ユニットほてい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の買い物に同行して頂いたり、入居者様の必要品購入の際は、一緒に外出して頂いている 又毎年町の文化祭に作品を出品して頂いたり、地域の祭りなどにできる限り参加して頂き、地域の方々との交流を深めている 昨年は『RUN伴(+)]というイベントにも初めて参加して頂いた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入居前からのかかりつけ医を継続して受診されており、希望があればかかりつけ医の変更も行っている 急な体調不良やケガの場合は主治医の判断を仰ぎ、別の病院での受診となる場合も、必ずご家族様・かかりつけ医に報告・相談を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師に来て頂き 1 週間の体調の様子を報告し、アドバイスを頂いている 職員間では毎日の申し送りで、体調の変化・受診内容等を報告し、情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はお見舞いに行き、体調を看護師へ尋ね、入院中の着替えの交換・必要品の補充等の対応行っている 又最短での退院をお願いし、許可が出次第すぐに対応できる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、入居時にご家族様に説明を行っており、協力医とは24時間連絡が取れるようにしているが、今後も知識習得や希望の再確認作業が必要である 又昨年より県南保健所主催の『介護施設における在宅医療や看取りの有り方に関する検討会』メンバーとなっており、今後は地域の関係者との協力体制にも助けとなると思われ		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習会に参加し、知識を身につける様にしている 又急変時の対応マニュアルも常備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防署協力の下火災避難訓練を行っている 又生年月日・血液型・緊急連絡先等を記載した安心カードを作成し、各居室入口に設置している 今後は火災だけでなく、地震や大雨等の自然災害に対する訓練も必要と考える		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様のできる事とできない事を把握し、作業を依頼している その際も職員から押し付けるのではなく、気分よく作業して頂ける様な声かけに努めている 又、夜間ポータブルトイレを使用される方の居室では、日中は目立たない様カバーをかけ、臭いにも配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望に関しては、すぐにできる事はその日の内に対応し、できない事は納得して頂ける様対話し、後日対応する様にしている その際、ご家族様に協力を仰ぐ場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕事をしたいと言われれば作業を依頼し、部屋で休みたいと言われれば午睡の時間をとり、畑仕事に余念のない方には、農業に長けた職員がお手伝いをしたりと、できる限りの支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容はできる方はご自分でして頂き、できない方も職員で対応している 又ご家族様より衣服購入のご要望があれば、買物へお連れし、ご本人様の見立てで買物を楽しまれたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ調理の下拵えから参加して頂く様にしており、できる方には料理の盛付をお願いする事もある 又食後の食器も、職員と一緒に下膳して頂く様にしている 好き嫌いで食べられなければ代替を提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はできるだけ完食して頂ける様に声かけを行い、食べ易い様な器・量の工夫を行っている 又新しく入居された方が、排泄解除に対する遠慮から、水分摂取を強く拒まれていたが、根気よく安心できる声かけを行い、充分量摂取して下さる様になった		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台へお連れし、ご自分で、不十分な方は職員のフォローにて口腔ケアして頂いている 又定期的に居宅療養管理指導の訪問を受け、より専門的な口腔ケアや歯科の管理にて、感染症や肺炎予防の効果も期待したい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてパッド装着行い、日中はトイレでの排泄を行って頂いている 又できる限り入居者様お一人お一人の排泄の時間を把握してお声かけを行い、トイレ要望繰り返す方にもできる限り対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認し、記録に残している 便秘気味であれば主治医へ便秘薬の調整を相談し、又スタッフにて水分量の調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表にて確認行い、できる限り間を開けない様に、入浴の声かけ行い、又健康状態やご気分を確認し、支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂ける様に、日中の傾眠時間を減らす為作業を手伝って頂いている 又ご本人様の不安な気持ちを、職員との会話にて安心に導ける様にし、居室の空調の調整は職員にてこまめに行い、環境面でも安眠出来る様に心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は受診の内容、処方された薬の内容を申し送り、受診録の記録にて、全職員が認識できる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活の中で、調理作業、洗濯作業等の役割を持って頂き、日々の生活が張りのある生活となる様努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りやご家族様への面会、外食や飲みにお連れしたりなど、柔軟な対応ができる様に努めている		

おばま温泉グループホーム湯之崎 ユニットほてい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で小額を管理されている方もおられるが、基本的にホームにて管理させて頂いている その為、不安を抱かれた時や欲しい物がある時等は、説明行い必要であれば一緒に購入の為の外出支援行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる態勢をとっており、実際に時々入居者様から息子様やお孫様へ連絡されている 又贈り物のお礼の電話や、年賀状や暑中見舞い等を出すお手伝いもしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、又空調に関してはこまめに温度調節行い、入居者様が不快にならない様心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望に応じて、テーブル席又はソファにて寛いで頂いている どちらもほぼ全入居者様の定位置となっており、落ち着く場所となっている様子 目の不自由な方も、すっかり慣れられ、大体の空間把握ができてきている模様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様の思い出の品や写真等を飾って頂き、ご本人様がいつまでも記憶に残る様な居室作りに努めている 目の不自由な方には、配置や貴重品の置き場所を説明したり、病院から直接入居となった方は、ご家族様と相談を行いながら入居準備を行った		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室等、表札や表示を分かる様に示し、目の不自由な入居者様に対しては、声かけにて認識して頂き、見守り・付き添い介助にて、不安を軽減できる様に支援している		